

□議員名：伊場 勇

1 藤田市政3期目の市政運営について

論点	人口減少という制約の中での各地域の持続可能な在り方について、どうお考えか。
回答	地区運営協議会を重要な組織と位置づけ、各地域が自らの力で自治を実現し、地域資源の活用、市民参加の促進、福祉・教育の充実、環境保全、交通課題解決などに取り組むことを目指す。これにより、各地域の持続可能な発展と市全体の活力向上を図る。

論点	官民連携による課題解決や産業振興のため、どのような支援が必要とお考えか。
回答	L A B Vプロジェクトに代表される官民連携は、持続可能なまちづくりに大きく寄与すると考えている。公有地活用や賑わい創出といった課題は、行政だけでは解決できないため、官民連携が効果的である。地域産業界の事業者の育成・活性化に向けた補助事業などの支援に加え、さらなる官民連携を促進する施策も検討していく。

論点	藤田市政は山陽小野田市をどのように育てていくお考えか。
回答	人口減少下でも持続可能なまち、すなわち市民が未来に希望を持てるまちを目指す。「まち育て」という言葉を使っているが、これは市民の皆様に主体的にまちづくりに取り組んでいただき、心から笑顔が生まれるようなソフト面の取り組みの重要性を意味する。市民、企業、団体、大学などとの「一円融合」によって、持続可能な地域社会と全ての世代が笑顔になれるまちの実現に全力を尽くす。

2 青年の家、糸根公園の再整備について

論点	青年の家・糸根公園のポテンシャルをどのように捉えているか。
回答	糸根公園は交通アクセスが良好で、周辺に多様な集客施設が近接しているため、地域住民だけでなく観光客にも大きな利便性を提供し、地域全体の活力向上に寄与する高い潜在能力を秘めていると考えている。

論点	再整備にあたり、地域住民の意向をどのように取り入れるか。
回答	都市公園は地域住民が日常的に利用する重要な施設であるため、整備には地域のニーズを踏まえることが重要である。基本計画策定時に住民意向調査を実施したが、基本設計の段階では地元と意見交換をしながら進めていく。

論点	管理棟の事務機能移転は応急的対応とのことであるが、再整備に合わせた総合的な計画はあるか。
回答	利用者には御不便をおかけするが、分かりやすい表示などで対応する。糸根公園の再整備では、管理棟の機能は確保する考えであり、事業の進捗に応じて、担当部署と情報共有しながら円滑に移行できるよう対応する。

論点	当初、令和12年度完了予定であったが、老朽化による利用者減少を避けるため、スピード感を持った再整備は可能か。
回答	今年度予定している費用対効果分析の結果を踏まえ、今後の整備方針を検討し、可能な限り早期に事業を完成できるよう努めていく。

3 公共施設への防犯カメラの設置の必要性について

論点	市内の公共施設における防犯カメラの現在の設置状況はどうか。
回答	市が直接所有する施設では、建物に11か所（約7%）、公園や駐輪場などの建物以外に4か所（約2%）設置されている。市役所には7機のカメラがある。小中学校では4校に設置されているが、これらは全てPTAが整備したものである。

論点	防犯カメラの設置が不十分な公共施設への早期設置について、どのようにお考えか。
回答	要綱に基づき、今後も引き続き適正に管理・運用する。防犯カメラが犯罪予防に有用であることは認識しており、今後は各施設を所管する部署において、個々の施設の状況を踏まえ、その必要性を十分に検討した上で対応していきたいと考えている。